

瀬戸内海クルーズ 新アクションプランの概要

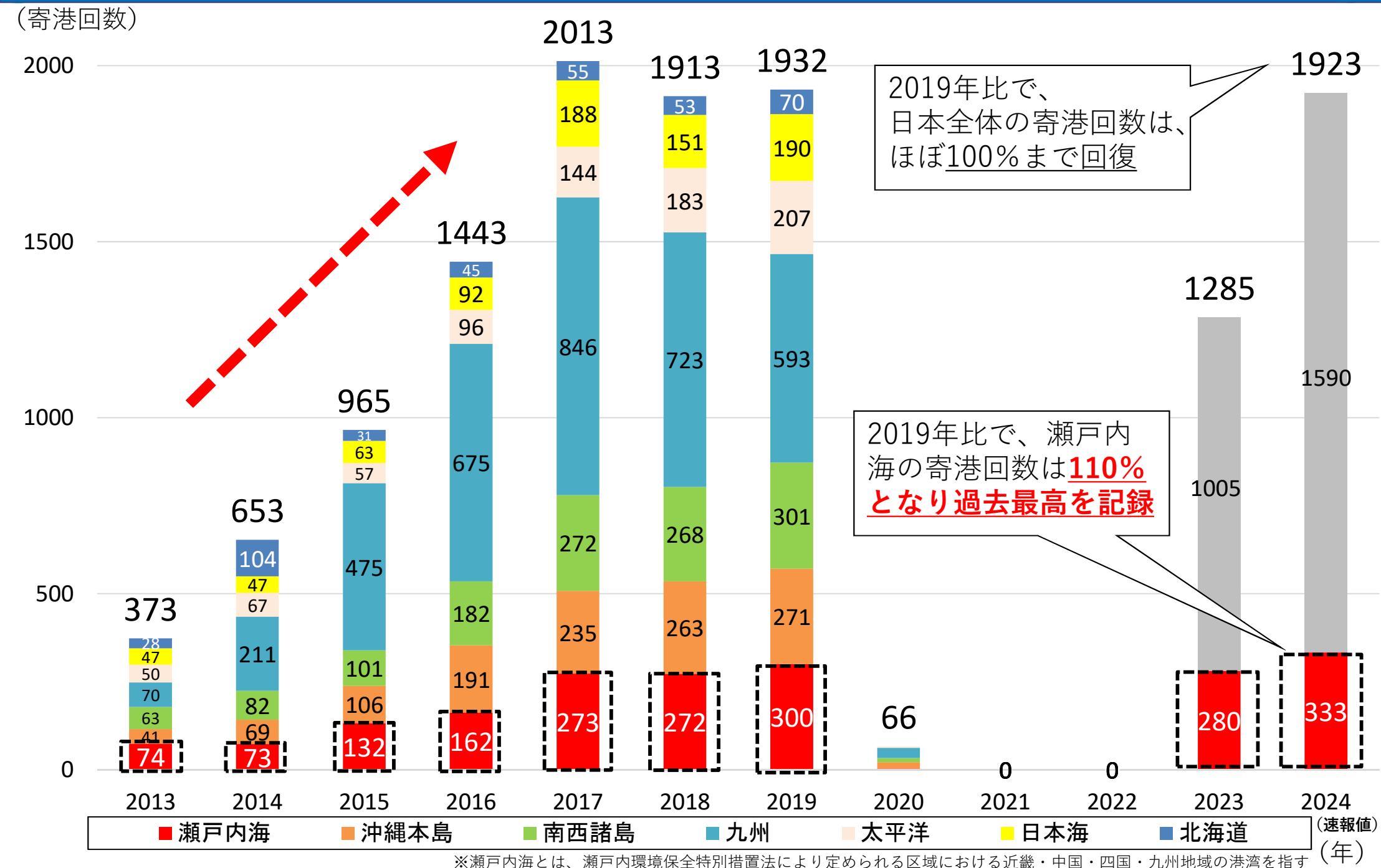
瀬戸内海クルーズ推進会議
令和7年 4月24日



目次

1. 現アクションプランの総括	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2.瀬戸内海クルーズ新アクションプラン	・・・・・・・・	2
(1) 小・中型のラグジュアリー船による瀬戸内海クルーズの実現	・・	3
(2) 大型のクルーズ船による瀬戸内海クルーズの実現	・・・・・・	5
(3) 既存の定期航路及び海上タクシーや小型船の2次輸送を 活用した瀬戸内海周遊観光の実現	・・・・	7
(4) 大型プレジャーボート受入拡大の実現	・・・・・・・・・・・・	9

日本全体における外国クルーズ船の寄港回数（地域別）



現アクションプランの総括【ランドオペレーター、クルーズ船社、旅行会社の意見】

●瀬戸内海クルーズ推進会議アクションプラン（行動計画：令和元年策定）

＜現行アクションプランに基づく具体的な取り組み＞

①広域連携による戦略的な誘致活動の実施

- クルーズ船社等を招聘したセミナー、講演会の開催
 - ・探検クルーズの紹介（船社：ポナン）
 - ・アフターコロナ時代のクルーズ船受入（東武トップ）
 - ・大阪関西万博を契機としたクルーズ船誘致（万博協会）
 - ・MaaSの取り組みの紹介（JR西日本）
 - ・ヨット型客船のコンセプトと寄港地の運営アイデア（両備HD）ほか

②魅力的なクルーズプランの提案

- クルーズ船社等への誘致活動及びFAMツアーの開催
 - ・令和元年から7回の誘致活動（商談会）を実施。
 - ・令和2年、5年にFAMツアーを開催。
 - ・船社等とのパネルディスカッション。
- クルーズガイドブックの作成
 - ・春夏秋冬クルーズ、探検クルーズプラン
 - ・観光コンテンツ（世界遺産、国宝、グルメ、体験ほか）
 - ・瀬戸内海の情報（航行規制、岸壁スペックほか）

③戦略的な情報発信

- PR動画の作成
- クルーズ情報プラットフォーム
 - ・外航クルーズ船社向けのクルーズ情報を提供。
- 海外に向けた情報発信
 - ・平成31年シートレードへの参加、令和5年パンフ掲載。

民間事業者等からの意見

＜総括＞

- ・港湾管理者や自治体と直接話ができる貴重な機会であり、寄港地の現場の要望やシーズを実感できる場であった。
- ・離島を巡るFAMツアーは、ランドオペレーターにはこれまでになかった発想であり、有意義なものであった。
- ・瀬戸内海は寄港地間の距離が近いため、午前と午後で2か所を巡る商品を昨年から販売しているが、そのルーティングを考えるうえでFAMツアーは大変参考になった。
- ・瀬戸内海は航行すること自体がコンテンツであり、その解説やストーリーを考えるうえでも、陸からではなく、海から観察できたことは有意義な体験だった。

＜継続的な課題＞ 新アクションプランへ

- ・瀬戸内海は、文化や風景の観光資源に注目している欧米人にとっても魅力がある。まだ未だ未知のデスティネーションであり、もっと積極的に売り出していっても良いのではないか。
- ・外国船をチャーターした瀬戸内海クルーズを実施し大変好評であった。しかし、10万GT以上の船は瀬戸内海で航行することに船社はネガティブな印象であった。
- ・FAMツアーは、競争の観点から他社と合同ではなく個社単位での実施が望ましい。また、インバウンドと日本人客を対象に分けるべき。お茶や着付け体験などは日本客にはマッチしない。
- ・クルーズガイドブックについて、瀬戸内海を航行するクルーズ船のサイズに合わせたカテゴライズにより、船社にとっての有用性に繋がると考えられる。
- ・小型船での2次輸送を想定した現地実証は有意義であった。一方で個人旅行客等も増えていることから、これからは既存の定期航路等を活用した瀬戸内海周遊プランを進めていく必要がある。
- ・クルーズ旅客以外にも大型プレジャーボートで寄港する個人旅行客（富裕層）も多いため、それらに対する受入体制を進めていくことが重要である。

☆ 令和5年新たな外航クルーズ船社の誘致及び新たな港への寄港が実現した。

瀬戸内海クルーズ新アクションプラン

小・中型のラグジュアリー船による
瀬戸内海クルーズの実現



既存の定期航路及び海上タクシーや小
型船の2次輸送を活用した瀬戸内海周
遊観光の実現



出典:小豆島フェリー株式会社より提供

- クルーズ船が寄港したことのない地方部等における更なる観光振興を目指し、小・中型のラグジュアリー船による瀬戸内海クルーズを実現する

瀬戸内海が世界的に知名度の高い「エーゲ海」や「カリブ海」等に並ぶ
ブランド力の高いクルーズの海となることを目指す

- 地方都市部における更なる観光振興を目指し、大型のクルーズ船による瀬戸内海クルーズを実現する。

- 離島における更なる観光振興と航路利用者の増加による持続可能な生活航路の構築を目指し、既存の定期航路及び海上タクシーや小型船の2次輸送を活用した瀬戸内海周遊観光を実現する。

- 富裕層の長期滞在に伴う地方部等の経済活性化を目指し、大型プレジャーボートの受入拡大を実現する。

大型のクルーズ船による
瀬戸内海クルーズの実現



大型プレジャーボートの
受入拡大の実現



1. 小・中型のラグジュアリー船による瀬戸内海クルーズの実現

小型ラグジュアリー船による瀬戸内海クルーズについて

○2023年にポナン社(仏)より、瀬戸内海を巡るエクスペディションクルーズが商品化され、同社からは2024年以降も瀬戸内海クルーズが継続的に販売されている。

ル・ソレアル(Le Soleal)

ポナン(フランス)/Ponant(France)



「穏やかなる瀬戸内海」(2023年5月)



「瀬戸内と西日本沿岸クルーズ」(2025年4月)



ORヨットプロジェクト株式会社は、日本で初となるヨットスタイルの客船を2027年に竣工予定。



出典:両備グループHP

1. 小・中型のラグジュアリー船による瀬戸内海クルーズの実現

(1) 民間事業者等が抱える課題の一部

【課題】観光資源の磨き上げ

- ・地元住民の生活を垣間見たり、日本の文化・歴史を体験できる特別なツアーが求められている。
- ・瀬戸内海は食、自然、文化など魅力的なコンテンツがたくさんあるにも関わらず、必ずしもツアーとして確立できていない。



【課題】地元調整

- ・寄港地を決定する際に必要となる地元関係者(漁業関係者等)との調整について、行政側からサポートをいただきたい。

構成員からのアクション

(2) アクションの一部

【課題】観光資源の磨き上げ

【姫路市、岡山県、竹原市、宇和島市、大分県、別府市などアクション多数】

- ・瀬戸内独自の地域資源に特別感のある演出や体験を加えるよう関係者へ助言するなどし、未だ知られていない寄港地の観光コンテンツの造成やツアーの提案を行う。



【課題】地元調整

【尾道市などアクション】

- ・関係者との橋渡しや良好な関係性の構築に向けたサポートを地元船舶代理店とともにを行う。

2. 大型のクルーズ船による瀬戸内海クルーズの実現

日本に配船されている代表的な大型クルーズ船

ダイヤモンド・プリンセス(Diamond Princess)

プリンセス・クルーズ(アメリカ)/Princess Cruises(USA)



写真:令和5年3月30日 松山港外港地区への寄港状況

- 主要目 -

総 トン数	115,906トン
全長／型幅	290.00m／38m
喫 水	8.55m
乗 客 定 員	2,706人
乗 組 員 数	1,100人

瀬戸内海を航行するクルーズの例

バイキング・エデン(Viking Eden)

(チャイナ・マーチャンツ・バイキング・クルーズ)



- 主要目 -

総 トン数	47,842トン
全長／型幅	228m／29m
喫 水	6.85m
乗 客 定 員	930人
乗 組 員 数	545人

写真:令和6年12月6日 宿毛湾港池島地区への寄港状況

神戸港発着 瀬戸内海と新春の西日本を巡る
ニューイヤークルーズ8日間(2024/12/28~2025/1/4)



出典:株式会社クルーズプラネットHP

2. 大型のクルーズ船による瀬戸内海クルーズの実現

(1) 民間事業者等が抱える課題の一部

【課題】岸壁等施設における受入体制の構築

- 体制が整っていない場合CIQに時間を要し、雨天や炎天下での屋外待機は旅客には厳しいため、受入体制が整ったターミナルが必須である。



【課題】瀬戸内海の航行制限

- 備讃瀬戸航路、来島海峡航路においては巨大船の夜間航行規制があり、トラブル等で少しでも遅れれば瀬戸内海を航行できなくなるため、瀬戸内海クルーズはどうしてもリスクがある。
- クルーズ商品は2~3年前から販売するものである一方、来島海峡航路における巨大船の航行の予約は1年前からとなっているので、瀬戸内海クルーズを商品として作りづらい。

構成員からのアクション

(2) アクションの一部

【課題】岸壁等施設における受入体制の構築

【大阪港湾局よりアクション】

- ファーストポート・ラストポートでの受入に対応できる港として、より円滑な受入の実現に向けて調整を進めていく。



【課題】瀬戸内海の航行制限

【推進会議よりアクション】

- 備讃瀬戸航路の航行について、関係者の意見をよく聞きながら方策を探る。
- 来島海峡航路の航行について、クルーズ船の寄港予定に合わせた予約が可能となるよう関係者に対し、要望活動を行う。

3. 既存の定期航路及び海上タクシーや小型船の2次輸送を活用した瀬戸内海周遊観光の実現

(例) 香川県内における主なフェリー航路網



SHIP DATA

船名..... 第三しようどしま丸
総トン数..... 1,351トン
全長..... 72m
幅(最大幅).... 15m
深さ..... 4m
航海速度..... 13.5ノット
進水年月..... 令和6年5月
旅客定員..... 490名
積載能力..... 乗用車60台



出典: 小豆島フェリー株式会社より提供



No.	船種	寄港地	船社名等
①	フェリー	高松ー小豆島(坂手)ー神戸	ジャンボフェリー(株)
②	フェリー・高速艇	高松ー小豆島(土庄)	小豆島フェリー(株)
③	フェリー	高松ー小豆島(池田)	国際両備フェリー(株)
④	フェリー・高速艇	高松ー直島(宮浦)	四国汽船(株)
⑤	フェリー	高松ー豊島(家浦)	(株)豊島フェリー
⑥	旅客船	高松ー女木ー男木	雌雄島海運(株)
⑦	旅客船	直島(宮浦)(本村)ー宇野	四国汽船(株)

No.	船種	寄港地	船社名等
⑧	フェリー	直島(宮浦)(風戸)ー宇野	四国汽船(株)
⑨	高速船	直島(宮浦)ー豊島(家浦)ー犬島	四国汽船(株)
⑩	フェリー・旅客船	小豆島(土庄)ー豊島(唐櫃)ー豊島(家浦)ー宇野	小豆島豊島フェリー(株)
⑪	フェリー	小豆島(土庄)ー新岡山	国際両備フェリー、四国フェリー
⑫	フェリー	小豆島(福田)ー姫路	小豆島フェリー(株)
⑬	旅客船	高松ー大島	大島青松園

3. 既存の定期航路及び海上タクシーや小型船の2次輸送を活用した瀬戸内海周遊観光の実現

(1) 民間事業者等が抱える課題の一部

【課題】クルーズとの連携

- ・ クルーズ船旅客がフェリーを利用していることはほとんどないのが実感。
- ・ クルーズ船旅客がフェリーを利用する場合、事前にクルーズ会社より時刻やコンテンツプランを提示しないと、利用が見込めない。



【課題】受入環境の更なる改善

- ・ フェリー乗り場待合所におけるバリアフリータラップの設置や案内表示等が不足している。

構成員からのアクション

(2) アクションの一部

【課題】クルーズとの連携

【小豆島町などアクション】

- ・ 離島へのフェリー航路を、フェリー発着港に寄港するクルーズ船社にPRし、「既存航路」を活用した離島への誘致活動を行う。



【課題】受入環境の更なる改善

【(一社)中国旅客船協会などアクション】

- ・ バリアフリータラップの設置を進めるとともに、各港湾施設のサイン類の多言語化と航路情報の発信を行政機関に要望する。

4. 大型プレジャーボート受入拡大の実現

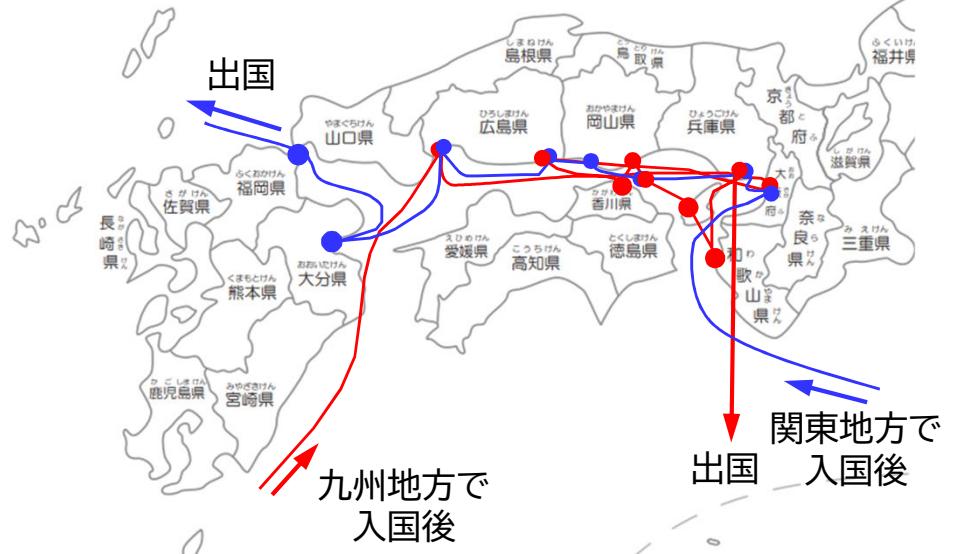
大型プレジャーボート寄港時の動き（事例）



写真:RICHESSE(全長32.2m)

令和5年8月31日 高松港玉藻地区への寄港状況
※右記のルートで運航した船舶ではありません。

ルート① — の滞在期間：約80日
ルート② — の滞在期間：約10日



瀬戸内振興に関する民間事業者の取組の紹介

● SETOUCHI ISLANDER

- 瀬戸内広域のチャーター船事業6社11隻で瀬戸内海のクルーズ専門会社(DMC)として2024にスタートし、個人旅行者(FIT)を対象とした瀬戸内周遊クルーズツアー(アイランド・ホッピング)を企画・実施。
- 瀬戸内海を「神戸・大阪エリア」「岡山・香川エリア」「しまなみエリア」「広島エリア」の4つのエリアに分割し、日帰りから2泊3日程度のクルージングを提案。



Vessels(使用船舶の一例)

出典:SETOUCHI ISLANDER

4. 大型プレジャーボート受入拡大の実現

(1) 民間事業者等が抱える課題の一部

【課題】係留施設の確保(ハード面)

- ・ 海外旅客は大きなサイズのヨット(40ft以上)を求めており、瀬戸内地域は係留施設が全般的に不足している。
- ・ 港別に見ると、高松港・宇品港などハブ港となり得る港湾においては100ft超え、その他の港湾では80ft以下の大型プレジャーボートの受け入れ施設が必要である。
- ・ 給電や給水といった付帯施設も充実させる必要がある。



【課題】係留施設の確保(ソフト面)

- ・ 係留施設の事前予約や長期係留ができないと計画を立てることができないため、係留許可を柔軟に行えるようにして欲しい。

構成員からのアクション

(2) アクションの一部

【課題】係留施設の確保(ハード面)

【香川県、愛媛県、徳島県などアクション】

- ・ 大型プレジャーボートの受入に必要な係留施設の整備を進めている。給電や給水設備等の付帯施設についても、利用者等のニーズを踏まえ順次進めていきたい。



【課題】係留施設の確保(ソフト面)

【三原市などアクション】

- ・ ビジター桟橋における係留方法(最大10日間、事前予約可)を船舶代理店に情報提供する。